

## 気象庁長官表彰を受賞しました

### 気象庁長官表彰

大阪市立科学館は、令和6年6月1日の第149回気象記念日に、気象庁長官表彰を受賞しました。

受賞理由は「多年にわたり大阪管区气象台と連携したイベント活動や気象業務への理解促進に向けた取り組みを行うなど防災・減災に関する知識の普及啓発に寄与した功績」ということで、大阪管区气象台と共催で開催している夏休みミニ气象台をはじめとして、さまざまな気象に関する普及活動が評価されたものでした。

2020年には大阪管区气象台長表彰を受賞したのに続き、今回はさらに気象庁長官から表彰いただくことができました。

東京の気象庁本庁で行われた受賞式には出席できませんでしたが、6月21日、大阪管区气象台の榊原台長が科学館までご来館され、吉岡館長へ感謝状と記念品が授与されました。



写真1. 気象庁長官表彰

### 夏休みミニ气象台

大阪市立科学館では、さまざまな気象に関するイベントを実施しています。特に長年実施しているのが、毎年夏休みに実施している「夏休みミニ气象台」で、1997年より大阪管区气象台と共催で開催しています。このイベントでは気象に関するさまざまな展示物やミニ実験コーナーを設置して、气象台の職員の方が大勢来られて解説していただくというものです。气象台の専門職員の方に実際の業務に則して解説してもらえることから、専門的、実践的な内容のイベントです。



写真2. 夏休みミニ气象台

また、2022年度には「大阪管区气象台140周年記念 気象の科学展～天気予報ができるまで～」と題した企画展を実施しました。これは科学館が保有している気象測器や、气象台が長年蓄積してきた歴史的資料などを通して、気象観測の変遷と観測方法の原理を紹介し、天気予報の中にある科学を伝えようというものでした。

古い測器や資料からは、現在の天気予報にたどり着くまでに、長い年月の積み重ねがあったことを知ることができます。普段何気なく見ている天気予報の背後には、さまざまな科学や観測技術と、天気予報を支える人たちがいたことが分かります。

新しい展示場でも、気象に関するコーナーを設けています。気象では特に観測を行って現在の気象状況を知ることが、天気予報を行う上で基本となることから、どのようにして天気を観測するかを、実際の気象測器とともに紹介しています。企画展で展示した資料の一部を、常設展示として展示しています。

その他、日本気象予報士会と共催で「楽しいお天気講座」を年5回程度開催しているほか、気象キャスターネットワークとも共催でイベントを開催するなど、さまざまな普及活動を行っています。

### 気象科学館

科学館での授賞式の日には展示改装の作業の真っ最中でしたが、令和2年にリニューアルした、東京・虎ノ門にある気象庁の「気象科学館」は、榊原台長も改装に関わっておられたとのことで、新しい気象科学館を開館する際の苦労話などを伺うことができました。

新しい気象科学館は以前と比較すると、大型映像などを使った体験展示が多くなっています。例えば、予報官になったつもりで、クイズに答えながら知識を

身につけるような展示コーナーが設けられています。大雨や津波、火山などの防災に特化し、実際の場面をイメージしながら考える展示が作られていました。

展示コーナーには、当館にもある竜巻発生装置が設置されていました。よく見る竜巻発生装置と異なるのは2種類のモードがあることで、通常の竜巻が発生するモードのほか、台風のモードがあり、平面の渦が回転する様子を再現しているところが、気象科学館らしい展示でした。



写真3. 気象庁「気象科学館」の台風

近年、地球温暖化の進行とともに、夏の猛暑や台風・集中豪雨による気象災害が毎年のように起きています。こうした災害に備えるためには、気象に関する科学的理解が重要になってきます。今回の受賞を糧にして、今後もさまざまな展示やイベントを通して、気象に関する普及活動を実施していきたいと思っています。

江越 航(科学館学芸員)